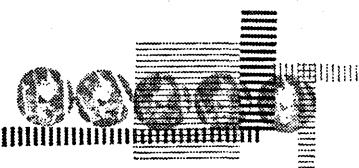


朝に思う



津守真

来の保育者にはわかりにくいことらしいが、私にと
つては真剣な作業である。

数田龍 稲葉 (Iorgi, A.): Psychology as a Human Science: A Phenomenologically Based Approach は、夜深め～朝やあさいに纏ふた。精神

保育の現場に出る日日、私は、朝、銀杏の並木道を歩きながら、日ごとに変化する葉の色や、日によつてことなる雲の形姿を見てい。それとともに、まもなくたしかにはじまるこの日のことを考えていい。何が起るか、何をするかという対象的側面を考えることもあるが、それ以前に、私自身が積極的に保育の現場にはいってゆくことができるよう、内心の戦いをしていると言つてもよい。このことは生

る学問に適切か否かを吟味する。その批判に立て、研究者から切り離された対象として人間を見るのではなく、共に生きる人間として、相互性の中で見る心理学を提倡する。外的観察者の観点からは、行動は可視的であり、経験は不可視的であるが、内的行為者の観点からは、経験が可視的であって、行動は不可視のものとなること、数量化された行動よりも、表現としての行動の質的側面に着目することなど、私が十数年来くり返し述べてきたのと同方向の論である。ところが、このような現象学的観点から理論的書物を書いている著者たちは、ほとんどが子どもの現場で仕事をしている人ではないのは不思議である。また、逆に、生きた子どもの仕事をしているはずの人が、そこから得られる自分の見識をすべて、機械論的説明に頼ろうとする傾向があるのも不思議である。

考えてみると、生の現象にみちている保育の現場の中から、人間の学問をつくり出そうとする試み

は、意外と、前人未踏の分野なのである。保育者が現場に身を浸して獲得する直接体験は、まさに人間の本質にふれている。保育の現場にはいって一日を過すことは、実践的にも研究的にも大きな価値があることをあらためて認識したとき、私は身体的には疲労を感じていたけれども、この日はことに積極的に現場に向うことができた。

現場に出ると、次々にいろいろなことが起り、一日が夢中のうちに過ぎることが多いので、次の日がくるまで、朝のひとときの重要さを考えるゆとりはめったにない。そして、翌朝がきて、また同じように道を歩きながら、子どもとの生活に自分が積極的になれるよう、心を向け直す。このときから保育の一日が始まっていることを、私は次第にはつきりと認識するようになってきている。

つたので、一見平和な風景の中にも、さまざまの実人生が秘められていることを思った。

* * *

大学から現場に、実際に身柄が移ったことによつて、わかつたことがいくつかある。

朝、子どもたちが、ひとりひとり、親と共に門からはいってくるとき、それぞれの過去も未来も、このひとときの姿に凝縮しているように思えて、たとえ互いに声をかけあわないほど離れていても、この一瞬を通じて、運命的なつながりを感じさせられる。

養護学校という場所にくるまでには、親子とも、遍歴し、傷つき、さまざまな悩みを経験している。子ども們の保育を担当するおとなたちも、皆、それぞれの人生の中で、この子たちとの偶然の出会いを自らの選択との間に揺れ動きつつ、ここに集まつている。ことは、私も、ここに到達するまでに、葛藤と決断と、それに伴う動搖の時期を経ねばならなか

る。いるという落ち着きをもつて子どもたちを見ていたから、それは私の精神のプロジェクトだと説明もできるだろう。だがそれ以上に、実際に子どもを見る自分の目にも親しみが増したのだと思う。この子どもたちが、自分の子どものように思えたのは、私自身が、この子どもたちの生活と成長の土台のひとつに組みこまれたという存在の根底の問題かと思

う。

日がたつにつれて、私にとつて明白になつてきたもうひとつのことがある。それは、たゞえ私が毎日子どもたちに接したとしても、長としての立場から

見るので、ひとりひとりの子どもに対して、知りうることは限られているということである。毎日、そ

れぞれの子どもと親しくして、その子どもたちの生活全体を見ているのは担任である。特定の子どもについての理解を深めているのは、ひとりの子どもとゆつくりとつきあつて実習の学生の場合もある。私は次第にそれぞれの子どもともっと親しくしたいと思っているけれども、ある限度をこえることはできないだろう。

担任は、自分の担当する子どもについて謙虚である。それは、子どもを少しわかったと思った次の日には、子どもは変化しており、自分の理解が絶対であることなどありえないということを、体験的に知

つてゐるからである。それだけに一般には不動の体系的知識をもつようにならざる専門家に対して、簡単に自分を明け渡してしまうおそれがある。

(愛育養護学校)